奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

小中学生の部

令和八年十月度　入賞句一覧

投句数　千二百　句

名和　よちる　選

特選

幽幽とどこにも行かぬ盆の月　　大垣市　長﨑　眞理子（中二）

「盆の月」は、陰暦七月十五日の月です。現在は月遅れの盆が大半ですから八月十五日あたりになります。雲のかかった間に幽幽と奥深いさまで月が浮かんでいます。しばらく眺めていると、見守られているようです。ただ月がきれいという表現にとどまらず、「幽幽」と詠むことで、あの世の気配を感じさせ、お盆の世界観を巧みに表しています。

つばめ帰るわたりろう下を後にして　　大垣市　陸田　峻生（小五）

つばめは四月頃から日本に来て、子育てを終え、秋には南の方へ帰って行きます。この「つばめ帰る」が秋の季語となります。慣れ親しんだ学校の渡り廊下で皆にあいさつをして飛び去って行ったようですね。何気ない一瞬を見事にとらえたすばらしい句となりました。作者のやさしいまなざしと成長が感じられます。

星月夜帰る足音ひとつだけ　　大垣市　川口　璃乃亜（中三）

「星月夜」は、月のない夜空が、星明りで月夜のように明るいことを言います。ただ一人家路に向かう途中、足音だけが響いています。広大な星空と自分一人の足音に焦点を当て、光と音のコントラストがとても効いています。受験生でしょうか。恋のときめきでしょうか。寂しさだけではなく希望も感じ取れます。一日の終わりに思うことが色々と想像されます。

秀逸

秋のはえ力の限りにげ回る　　大垣市　陸田　峻生（小五）

陽だまりで静かに飛び立つ冬の蝶　　大垣市　鬼渕　凰花（中二）

あきぞらにハートえがいたインパルス　　大垣市　河野　佳輝（小三）

おかわりがとまらないのは秋のせい　　大垣市　まつ田　なな（小三）

流れ星亡き犬からのおくりもの　　大垣市　市橋　春花（中二）

墓洗い線香かおる帰り道　　大垣市　郷　紗和（中二）

八月の十時に虫取りやりますね　　大垣市　高橋　日和（中二）

あきのそらくもがひとつもありません　　大垣市　水野　悠（小六）

テスト減点泣きべその帰路いわし雲　　大垣市　中村　朱里（小五）

夏の夜キリンジきいて泣く帰り　　大垣市　林　泰佑（中二）

入選

みそ煎餅パキッと響く秋の暮れ	愛知県岩倉市	加藤　由依奈（十三歳）
かぶとむしししろのかぶとすこしこわい	大垣市	竹中　音葉（小二）
箱眼鏡広がってゆく夏の波	大垣市	吉田　詩栞（中二）
身にそよぐ色無き風に何思ふ	大垣市	國井　一成（中二）
コオロギのソロで奏でるコンサート	大垣市	速水　湊音（中二）
夏の山静かに聞こえる水の音	大垣市	宇野　羽那（中二）
小テスト飛行機にしてとばす夏至	大垣市	髙橋　沙那（中二）
向日葵や挫けぬ背中ペン握る	大垣市	玉城　心愛（中二）
うんどう会はしってはしってせんしゅリレー	大垣市	そとべ　しょうご（小二）
クワガタがじまんのはさみ向けてくる	大垣市	浅野　良介（小三）
いねかりはばったたくさんにげていく	大垣市	小寺　仁（小三）
運動会はやくはしったびりだった	大垣市	大西　思音（小四）
とうもろこしはにはさまるのに食べてしまう	大垣市	松岡　奏芽（小四）
さんまやく目をはなせばまるっこげ	大垣市	栗木　楓彩（小四）
おやすみとぼくにささやく虫の声	大垣市	原　奏介（小五）
この夏はきけんな暑さ気をつけろ	大垣市	安藤　涼太（小五）
なつやすみそらにかがやくアンタレス	大垣市	山根　依織（小五）
かかしさん田や畑の守りがみ	大垣市	荒谷　桃我（小五）
くいせがわていぼうにはひがんばな	大垣市	名和　千夏（小六）
きれいだないちょうの葉の花ブーケ	大垣市	かなみ　めい（小三）

選者吟

ジャムを煮て大さじ小さじ色鳥来　　よちる

